2018年度共同生活援助事業報告

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　グループホーム施設長　　　山本靖雄

2018年度は「秋篠ハウス5名（男性）」・「若葉ハウス5名（女性）」・「富雄ハウス5名（女性）」の3事業所で実施した。秋篠ハウスは1名が入所施設への入所を機に8月末で契約を解除された。富雄ハウスは1名の利用者がほぼ2年間グループホームの利用が無く、話し合いの結果3月末で契約を解除された。

また、同時期に2名の新規利用者が3月より体験宿泊を始め2019年4月より利用開始となる予定である。体験宿泊の利用者には本人、ご家族と面談を重ね、グループホームに関しての説明（重要事項説明書）はもちろん、アセスメントを通して、移行できるように努めた。また、世話人にもミーティングを実施して、利用者がスムーズに利用開始できるよう情報共有を行った。

安全面において、秋篠ハウス・若葉ハウスはスプリンクラーの設置義務がある為、2018年度中に設置を行った。

各ホームの年間利用（別紙参照）に関しては、コンスタントに利用しているように見えるが、各ホームとも平均を下回っている月もある。（若葉ハウス9月、1月、2月・秋篠ハウス9月、1月、2月・富雄ハウス8月、9月、11月、12月、1月）原因として、8月は利用者の体調不良により急遽、宿泊のキャンセルがあった。9月は台風の接近に伴い各ホームを閉鎖した。11月、12月は常時宿泊している利用者の実家への帰省が増えた。1月・2月は基本的な宿泊日数が少ない事と、利用者の体調不良がみられた。天災に関しては仕方ない部分はあるが体調不良に関しては、ご家族と連携し体調管理に努めていきたい。

メンバーの様子として、全てのグループホームに共通している事は、実家の生活とグループホームを上手に使い分けている状況がある。メンバー各々生活年数が増えてきた事で「自分の家・部屋」と言う感覚や意識が強くなってきた。また、メンバーの中から「楽しい」「泊まりたい」と言う声が多く、そういった所がスタッフのモチベーションにも繋がっている。しかし、年齢的に体力面・精神面に不安が出てきているメンバーもいる。具体的には、病気での通院介助・入浴介助・通院・服薬の管理・睡眠の不安定・精神的不安定などである。その都度、メンバー1人ひとりの訴えを聞き対応した。また、家族との連絡、連携も大切にしてきた。

スタッフに関しては、情報の共有が不足している現状があったので、スタッフミーティング、個別面談を通して1人1人の意見を聞き連絡を密に取ってきた。スタッフの疑問点、今抱えている問題等を聞き、一緒に考えながら風通しの良い環境を目指した。

他施設との交流として、メンバーは奈良市のグループホーム交流会に参加し、お花見・運動会を通して交流を深め、スタッフは2ヶ月に1度開催される奈良市グループホーム会議に参加し情報交換、他施設のグループホーム見学を行った。

グループホームは、地域の一員として暮らす場として、年々メンバーの生活の基盤になってきている。